

令和 7 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (5) 地域への文化発信の拠点となる取り組み
(6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 情報社会学部

申請組織長 役職名 情報社会学部学部長 氏名 羽成 隆司

統括責任者 役職名 教授 氏名 亀井 美穂子

課題名 音楽愛好家と教員・学部学生が協働する音楽イベントの実施による地域文化の醸成

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	亀井 美穂子	情報社会学部・教授	イベントの企画・運営・実施・全体の取りまとめ
	分担	宮下 十有	現代マネジメント学部・准教授	イベントの企画・運営・実施のサポート
	分担	谷口 功	情報社会学部・教授	イベントの企画・運営・実施のサポート

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本事業は、地域のアマチュア音楽愛好家によるオーケストラと、本学の教員・学生が協働し、星が丘キャンパスおよび大学会館において音楽イベントを実施する取り組みである。イベントには本学学生だけでなく、相山女学園子ども園・保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校、そして星が丘周辺の地域住民や子どもたちへ広く情報提供し、参加を促した。

特に情報社会学部の学生には、授業やゼミと連携しながら情報発信や作品制作に関わる機会を提供した。これにより、学生が社会とつながり、学びを実践的に展開できる場を確保することを狙いとした。

また、これらの取り組みを通じて、学生・学園関係者・地域住民を巻き込み、星が丘を中心に音楽による地域文化の醸成を図ることを目的とした。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

本事業の特色と独創的な点は以下の 3 点である。

- 生涯にわたって音楽を楽しみながら学び続ける「音楽愛好家」への支援により、地域のアマチュアが担う音楽文化・音楽文化の醸成につながる点。
- 合奏団が実施してきた保育園の演奏会の経験を活かし、本学の幼稚園やこども園に通う小さな子どもも、楽しめるイベントとする。多様な年齢の人々を対象とした豊かな音楽文化の形成を促す点。
- 情報社会学部の中心的学びである「情報技術」を活かし、イベントの情報発信、運営、実施時の演出など、学生もイベントに関われる場を設け、学生が社会とつながり、大学の学びを展開できる点。

3. 事業の成果 (600 字～800 字程度で記述)

2年目の実施となった今回は、実施者と合奏団が協働開催に慣れたこともあり、前回よりも円滑かつ効果的に実施することができた。10月以降、事前の打ち合わせや複数回のリハーサルを重ね、東海市芸術劇場(10月19日、11月16日・23日、12月7日)および椋山女学園大学(12月14日の直前リハーサル、12月21日午前のゲネプロ)において十分な準備を整えた。

開催にあたっては、附属子ども園、幼稚園、小学校の協力により保護者への案内を行った結果、当日は子ども園・幼稚園・小学校関係者、情報デザイン学科の学生、卒業生、学部教員、その家族、地域住民、合奏団の支援者など、幼児から高齢者まで幅広い年代の101名が来場した。

演奏会では、「新世界より」第4楽章、「ポルカ雷鳴と電光」、冬の歌メドレー、久石譲作品など、クラシックから親しみやすい曲まで多様な楽曲を1時間にわたり披露した。最前列には子ども席を設け、多くの子どもが自発的に前方へ移動し、演奏に合わせて体を動かす姿が見られたことから、音楽に親しむ機会を十分に提供できたといえる。また、学生からは「高校まで続けていた合唱を今後も続けられる場を探したい」といった学びへの意欲の変化が聞かれ、大人の来場者からも「童心にかえて楽しめた」「子育ての時期を懐かしく思い出した」など、世代ごとの多様な受け止め方が寄せられた。これらの反応から、幅広い年代に開かれた演奏会と選曲であったことが確認できた。

さらに、幼い子どもが参加できる演奏会が少ない中で、本学と地域の音楽愛好家が協働し、継続的に開催できたことは大きな成果である。昨年の演奏会をきっかけに合奏団に入団した本学卒業生が今年度の演奏会へ出演したことも、生涯学び続ける人を支援するという本事業の目的を体現する例となった。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①音楽	②音楽愛好家	③地域連携	④文化醸成
⑤保育園	⑥幼児	⑦生涯学習	⑧参加型

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

今後の課題としては、学生の参加をより促すとともに、学生が運営補助に留まらず、より多様な場面で主体的に関われる機会を拡大することで、文化醸成に参画できる仕組みを整えていく必要がある。学生にとって、人生の先輩である卒業生や大人が音楽を楽しみ、学び続ける姿に触れることは、自身のキャリア形成においても貴重な学びとなる。また、今後は高校生など若い世代の参加も促し、この事業を地域に根ざした継続的な取組へと発展させていきたい。